

## 職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地			
神戸電子専門学校		昭和51年4月1日		福岡 壯治		〒650-0003 兵庫県神戸市中央区山本通1丁目6番35号 (電話) 078-242-0014			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地			
学校法人 コンピュータ総合学園		昭和52年2月28日		福岡 富雄		〒650-0003 兵庫県神戸市中央区山本通1丁目6番35号 (電話) 078-242-0014			
目的	デジタル機器から家電にいたるまで、あらゆる場所に組み込まれているマイクロコンピュータのシステムを設計・開発するマイクロコンピュータ応用技術の能力を持った人材を育成すること。								
分野	課程名		学科名		専門士		高度専門士		
工業	工業専門課程		情報工学科		平成7年文部科学省告示第7号		—		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技		
2年	昼間	1734	1122	0	612	0	0		
生徒総定員		生徒実員		専任教員数		兼任教員数		総教員数	
70人		50人		2人		2人		4人	
学期制度	<b>前期</b> ：4月1日～10月14日 <b>後期</b> ：10月15日～3月31日			成績評価		<b>成績表</b> ：有 <b>成績評価の基準・方法</b> 各期末の成績評価において、80点以上を5、60点以上80点未満を4、40点以上60点未満を3、20点以上40点未満を2、20点未満を1とする。 成績評価は試験、平常評価、レポート、実習課題、合評審査により行う。			
長期休み	<b>夏季</b> ：7月20日～8月31日 <b>冬季</b> ：12月20日～1月7日 <b>春季</b> ：3月20日～4月10日			卒業・進級条件		<b>進級条件</b> ： 学科の教育課程に定められた必修科目(選択必修科目を含む)のうち、当該年次で履修しなければならない科目を修得(成績評価3以上)し、かつ年間の出席率80%以上の者。 <b>卒業条件</b> ： 学科の教育課程に定められた必修科目(選択必修科目を含む)のうち、卒業までに履修しなければならない科目を修得(成績評価3以上)し、かつ各年次の出席率80%以上の者。			
生徒指導	<b>クラス担任制</b> ：有 <b>長期欠席者への指導等の対応</b> 電話・メール連絡、個人面談、保護者連絡、自宅訪問			課外活動		<b>課外活動の種類</b> 新入生歓迎イベント、学園祭			
						<b>サークル活動</b> ：有			

就職等の 状況	<b>■主な就職先、業界等</b> 電気電子通信業界， I T業界	主な資格・ 検定等  デジタル技術検定試験 C言語プログラミング能力認定試験
	<b>■就職率</b> <sup>※1</sup> : 100 %	
	<b>■卒業者に占める就職者の割合</b> <sup>※2</sup> : 96.43 %	
	<b>■その他</b>  (平成 27 年度卒業者に関する 平成28年5月1日 時点の情報)	
中途退学 の現状	<b>■中途退学者</b> 5 名	<b>■中退率</b> 8.2 %
	平成27年4月1日 在学者 61 名 (平成27年4月1日 入学者を含む) 平成28年3月31日 在学者 56 名 (平成28年3月31日 卒業者を含む)	
	<b>■中途退学の主な理由</b> 進学・就職を目的とした進路変更， 経済的理由， メンタル面での事情	
	<b>■中退防止のための取組</b> 担任制による個別相談・指導及び， カウンセリングなどのメンタルヘルスケアの実施	
ホームページ	URL: <a href="http://www.kobedenshi.ac.jp">http://www.kobedenshi.ac.jp</a>	

※1 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」の定義による。

① 「就職率」については， 就職希望者に占める就職者の割合をいい， 調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとす。

② 「就職率」における「就職者」とは， 正規の職員（1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいう。

③ 「就職率」における「就職希望者」とは， 卒業年度中に就職活動を行い， 大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい， 卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

（「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は， 卒業年次に在籍している学生等としている。ただし， 卒業の見込みのない者， 休学中の者， 留学生， 聴講生， 科目等履修生， 研究生及び夜間部， 医学科， 歯学科， 獣医学科， 大学院， 専攻科， 別科の学生は除いている。）

※2 「学校基本調査」の定義による。

全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料， 賃金， 報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが， 家事手伝い， 臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。）

## 1. 教育課程の編成

### (教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

本学科における実践的かつ専門的な職業教育を実施するために、企業等との連携を通じて必要な情報の把握・分析を行い、教育課程（カリキュラム）の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善等を含む）に活かすことを目的に、教育課程編成委員会（以下委員会という）を設置する。

委員会は、業界における人材の専門性の動向、国又は地域の産業振興の方向性、実務に必要な最新の知識・技術・技能、その他教育課程の編成に関する事項を審議する。

委員会の委員は校長及び校長が指名する教職員の他、専攻分野に関する企業等の役職員から広く選任するものとし、少なくとも以下の①または②から1名、③から1名を委員に加えることとする。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員。

②専攻分野に関する学会や学術機関等の有識者。

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員。

委員の任期は1年とする。但し再任を妨げない。

委員会の委員長は校長または校長が指名する教職員とし、委員会の会務を総理する。

委員会の実施結果については学校側委員および関連教職員により検討を行い、実践的かつ専門的な職業教育を実施するために必要な教育課程の編成に活用する。

### (教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成27年5月1日現在

名 前	所 属
岡田 栄一	関西電子情報産業協同組合
吉田 征一	モラブ阪神工業株式会社
遠藤 洋次	神戸電子専門学校
森崎 徳之	神戸電子専門学校
石橋 秀夫	神戸電子専門学校
帯田 淳	神戸電子専門学校

### (開催日時)

平成27年度第1回 平成27年 4月28日 15:00～17:00

平成27年度第2回 平成27年 8月26日 15:00～16:30

平成27年度第3回 平成28年 2月 2日 13:00～15:30

## 2. 主な実習・演習等

### (実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

企業等の要請等を十分に生かしつつ、本学科の専攻分野に関する職業に必要となる実践的かつ専門的な能力を育成することを目的に、企業等と連携して実習・演習の授業を行う。

実施に当たっては連携する企業との間に、実習・演習の実施、実習・演習用教材の作成、実務的能力評価に関する補助等について協定書（業務委託契約）を締結する。

実習・演習は教育課程編成委員会の結果を活用して編成された教育課程に対して、職業実践的能力を修得するための実習・演習の内容や方法検討、実施、修得した実践的能力の評価等について企業等と連携して行う。

実習の実施については企業講師と協議の上、適時連絡を取りながら学校教員が執り行う。

評価については学生に提出させた目標値と実測値の結果を企業と連携して評価し、学生の成績評価に取り入れる。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
設計演習	1年次に習得した電子回路・マイコン・プログラミング言語などの復習と論理設計の演習および、より大規模なシステムの設計・製作・制御の知識・技術を修得するために必要な回路を制御するプログラミング実習を行う	株式会社アルファメディア 神戸支社

### 3. 教員の研修等

#### (教員の研修等の基本方針)

神戸電子専門学校教職員は業務上の能力開発、資質の向上等に関し組織的に研修に取り組む。

教員は職業専門教育を実践するFD（ファカルティデベロップメント）を主題とし、専門的技術力（専攻分野における実務に関する知識、技術、技能）の向上、および教育力（授業および学生に対する指導力）向上等を目的として実施する。

- ・学校全体研修は全教職員を対象とし、年間1～2回の研修を実施する。
- ・部署別研修は部署教職員を対象とし、任意の研修を実施する。
- ・個人研修は所属部門長の指示により、任意の研修を実施する。

教職員の資質向上および教育の質保証のために、積極的に外部の研修へ参加を奨励する。

一部の者が参加する外部研修の結果等については、必要に応じ関連学科・部署または教員全体への報告会等を開催し共有を図る。

### 4. 学校関係者評価

#### (学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成27年5月1日現在

名 前	所 属
永吉 一郎	地域ICT推進協議会
網本 雅生	NPO法人神戸デザイン協会
横山 剛	株式会社SRC

#### (学校関係者評価結果の公表方法)

URL: <http://www.kobedenshi.ac.jp> (学校ホームページにて公表)

### 5. 情報提供

#### (情報提供の方法)

URL: <http://www.kobedenshi.ac.jp> (学校ホームページにて情報提供)

## 授業科目等の概要

(工業専門課程 情報工学科) 平成27年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			電気数学	直流回路網での計算方法の理解 (オームの法則, キルヒホッフ, テブナンの定理, 重ね合わせの理など)	1通	34		○			○			○	
○			基礎教養	就職試験に向けての一般教養およびSPI対策など	1通	34		○							○
○			デジタル設計	デジタル信号を入出力する電子回路の設計と製作, PICを用いた回路設計とインターフェイス設計	1通	136		○	△	△	○			○	
○			アナログ設計	ディスクリートデバイスやオペアンプなどを使ったアナログ信号処理技術と電力制御技術の学習	1通	102		○	△	△	○				○
○			電気通信工学	工事担任者試験DD第1種対策 (技術科目対応)	1通	68		○			○				○
○			C言語	C言語での初級から中級レベルでのプログラムの作成と実習	1通	102		○	△	△	○			○	
○			アーキテクチャ	マイコンについての基礎知識から周辺デバイス (USB など) とのインターフェイスやマイコンの活用についての学習	1通	102		○	△	△	○			○	
○			アセンブラ言語	PICを題材にして, アセンブラプログラミングの学習, デジタル設計と連動して, 製作した回路の制御プログラムの作成と実習	1通	136		○	△	△	○			○	
○			演習 I	C言語プログラミング能力認定の対策 C言語を用いてのH8マイコン制御用プログラム実習	1通	68		○	△	△	○			○	
○			演習 II	デジタル技術検定試験制御部門などの対策	1通	68		○	△		○			○	
○			キャリアデザイン	就職活動に備える為, 身につけなければならない「社会性」「意志力」を醸成する	1通	34		○			○			○	
○			電気数学	交流回路計算 (LCR回路網での複素計算, インピーダンス計算), 直流過渡解析	2通	68		○			○				○

○		製作実習	1年次に習得した電子回路・マイコン・プログラミング言語などを応用して、より大規模なシステムの設計・製作・制御の知識・技術を修得するために必要な回路の製作実習を行う	2通	136		△	○	○	○		
○		設計演習	1年次に習得した電子回路・マイコン・プログラミング言語などの復習と論理設計の演習および、より大規模なシステムの設計・製作・制御の知識・技術を修得するために必要な回路を制御するプログラミング実習を行う	2通	136		△	○	○	○		○
○		アナログ設計	センサなどのアナログインターフェイス回路の設計と製作	2通	68		○	△	△	○		○
○		電気通信工学	工事担任者試験DD第1種対策(技術・基礎・法規科目対応)	2通	68		○			○		○
○		アセンブラ言語	8086アセンブラを用いたプログラミングの学習	2通	102		△			○	○	○
○		C言語	Windows上で動作するプログラムの作成と実習	2通	170		△			○	○	○
○		演習Ⅰ	デジタル技術検定試験, 工事担任者試験対策(計算理論)	2通	34		○			○		○
○		演習Ⅱ	アプリケーション開発(Excel, VBプログラミングなど)	2通	68		△			○	○	○
合計				20 科目		1734 単位時間( 単位)						

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
<b>卒業要件</b> 各年次の進級要件を満たした者で、学科の教育課程に定められた必修科目(選択必修科目を含む)のうち、卒業までに履修しなければならない科目を修得(成績評価3以上)し、かつ各年次の出席率80%以上の者。 <b>進級要件</b> 学科の教育課程に定められた必修科目(選択必修科目を含む)のうち、当該年次で履修しなければならない科目を修得(成績評価3以上)し、かつ年間の出席率80%以上の者。 <b>成績評価について</b> 各期末の成績評価(100点満点)において、80点以上を5、60点以上80点未満を4、40点以上60点未満を3、20点以上40点未満を2、20点未満を1とする。成績評価は試験、平常評価、レポート、実習課題、合評審査により行う。 <b>履修方法</b> 全科目が必修となっている。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。